



---

# *Music Mission*をエフェクターとして使う

## [1. 概要](#)

## [2. Music Mission の起動](#)

## [3. 初期設定の変更](#)

### [3.1. 初期の画面とボタンの輝度変更](#)

### [3.2. EXPERT MODE](#)

### [3.3. 操作画面に戻る](#)

## [4. ANEMAN での設定](#)

## [5. 操作](#)

### [5.1. ソフトウェアの基本的な考え方と操作](#)

## [6. 操作パネルの表示](#)

## [7. MERGING+DYNAMICS](#)

[More than just a single Dynamics](#)

[ANUBIS MERGING+DYNAMICS FEATURES](#)

[Dynamics Modules](#)

[Gate](#)

[Compressor](#)

[Limiter](#)

[DYNAMICS PARAMETERS](#)

[Dynamics ON/OFF](#)

[Threshold](#)

[Ratio](#)

[Output / MakeUp Gain](#)

[Metering](#)

[Attack](#)

[Release](#)

[Sidechain](#)

[ON/OFF](#)

[ON/OFF](#)

[Module Selector](#)

[Module Status](#)

[Auto Gain](#)

[Reset Gain](#)

[Peak Reset](#)

[Link Dyn](#)





---

[RESET](#)

[Record Post FX](#)

## [8. MERGING+EQ](#)

[ANUBIS EQ FEATURES](#)

[ANUBIS EQ RESTRICTIONS](#)

[ANUBIS EQ PARAMETERS CONTROLS](#)

[Bypass](#)

[Filter Type](#)

[Band Frequency \(up to 4\)](#)

[Gain](#)

[Band Q-Factor \(7\)](#)

[EQ Control Column](#)

[ON-OFF](#)

[Link EQ](#)

[Presets:](#)

[Record Post FX](#)

[RESET EQ](#)

[Import and Export Snapshots \(firmware 1.4.3 以降\)](#)

## [9. 物理出力の変更方法](#)

[How to configure the Bus Routing](#)

[Bus Routing Examples](#)







## 1. 概要

- この参考書では、DAWからの出力信号に Anubis で **Dynamics** や **EQ** をかけて XLR からアナログで出力することを解説しています。
- これらエフェクトを使用するためには、**Music Mission** を使用する必要があります (Monitor Mission では EQ以外のエフェクトはかけられません)。
- 解説内での操作説明は、最低限のものとなっています。詳しい解説は下記リンクよりそれぞれのマニュアルをご覧ください。

Anubisに 関して	Anubisマ ニュアル	<a href="http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/ANUBIS/%E7%B0%A1%E5%8D%98%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB/Anubis%E6%97%A9%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8A%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB.pdf">http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/ANUBIS/%E7%B0%A1%E5%8D%98%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB/Anubis%E6%97%A9%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8A%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB.pdf</a>	
	Anubis 簡単 マニュアル	<a href="http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/ANUBIS/Manual/ANUBIS%E3%83%A6%E3%83%BC%E3%82%B6%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB%20V18-10.2022.pdf">http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/ANUBIS/Manual/ANUBIS%E3%83%A6%E3%83%BC%E3%82%B6%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB%20V18-10.2022.pdf</a>	
	Music Mission マ ニュアル	<a href="http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/ANUBIS/Manual/Anubis_MUSIC_MISSION_APPENDIX%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E7%89%88.pdf">http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/ANUBIS/Manual/Anubis_MUSIC_MISSION_APPENDIX%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E7%89%88.pdf</a>	



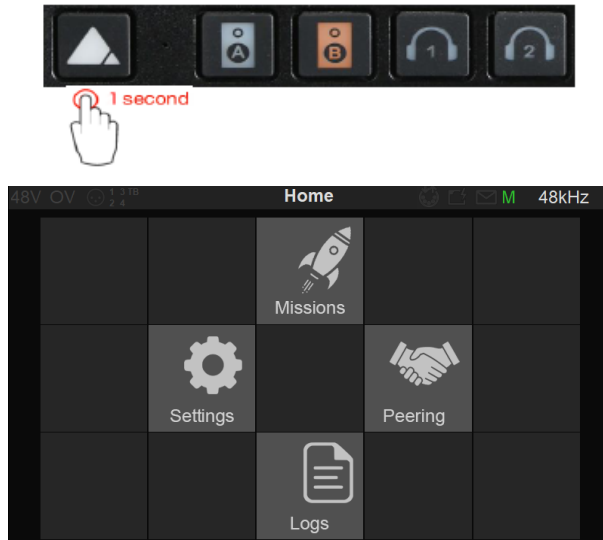
	Music Mission 簡単マニュアル	<a href="http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/ANUBIS/%E7%B0%A1%E5%8D%98%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB/MusicMission_%E7%B0%A1%E5%8D%98%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB.pdf">http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/ANUBIS/%E7%B0%A1%E5%8D%98%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB/MusicMission_%E7%B0%A1%E5%8D%98%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB.pdf</a>	
ANEMAN	ANEMAN ユーザーマニュアル	<a href="http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/ANEMAN/ANEMAN%E3%83%A6%E3%83%BC%E3%82%B6%E3%83%BC%E3%83%9F%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB%20v1.5.2.pdf">http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/ANEMAN/ANEMAN%E3%83%A6%E3%83%BC%E3%82%B6%E3%83%BC%E3%83%9F%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB%20v1.5.2.pdf</a>	
MAD	MAD2.0 マニュアル	<a href="http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/MAD/MAD2.0%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB.pdf">http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/MAD/MAD2.0%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB.pdf</a>	
VAD	VAD 3.2 ガイド	<a href="http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/MACOS/Virtual%20Audio%20Device%20V3.2%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89.pdf">http://www.dspj.co.jp/~manuals/MergingTechnologies/MACOS/Virtual%20Audio%20Device%20V3.2%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89.pdf</a>	



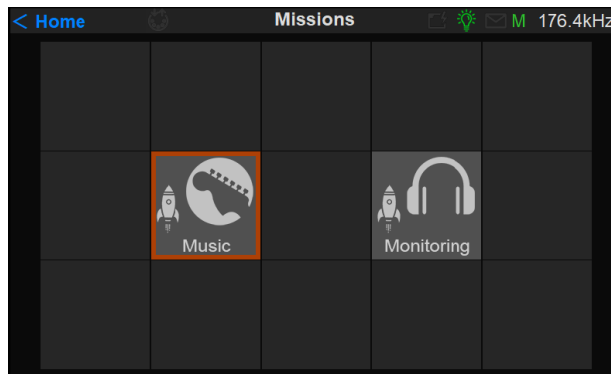
## 2. Music Mission の起動

2.1. Anubis の電源を入れてください。

2.2. 起動したら、Homeボタンを長押しして Home を表示させてください。



2.3. Missions にタッチして Music にタッチしてください。これで Music Mission が起動します。





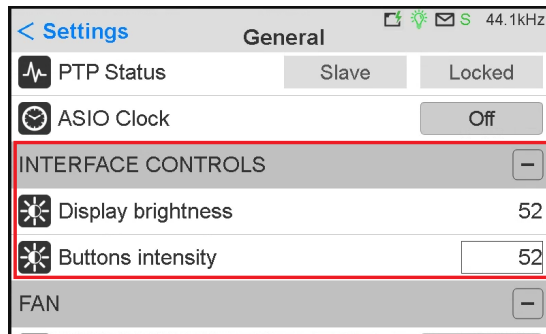
### 3. 初期設定の変更

#### 3.1. 初期の画面とボタンの輝度変更

3.1.1. 画面右下の **MENU** にタッチし、続いて **SETTINGS** にタッチしてください。



3.1.2. 続いて **GENERAL** にタッチし、**INTERFACE CONTROLS** まで画面をスクロールダウンしてください。ここに画面とボタンの輝度コントロールがあります。それぞれタッチして本体のダイヤルを回し、30~50 程度まで下げてください(これは必須ではありませんが、消費電力と本体温度を上げない効果があります)。



#### 3.2. EXPERT MODE

3.2.1. 画面左上の **< Settings** にタッチすると、ひとつ上の階層に戻れます。ここに Cue Box として使用する場合に便利な **Expert Mode** の ON スイッチがあります。**Expert Mode** では、全てのコントロールが使用可能なモードです。

- 5 X CUES, 3 X SENDS
- 5 X CUE のモニタリング
- 3 X SENDS のロータリー センド
- リバーブ, ダイナミクス バスを含んだ 全てのSENDSのフェーダー表示
- ミキサーのチャンネル レイアウトを変更できる Mixer Setup ページ
- Mono Bus Routing サポート
- 拡張IOのペアリング サポート
- Mixerのパンニングなどの追加設定

#### 3.3. 操作画面に戻る

3.3.1. **Home** ボタンを短く押すと、通常の操作画面に戻ることができます。



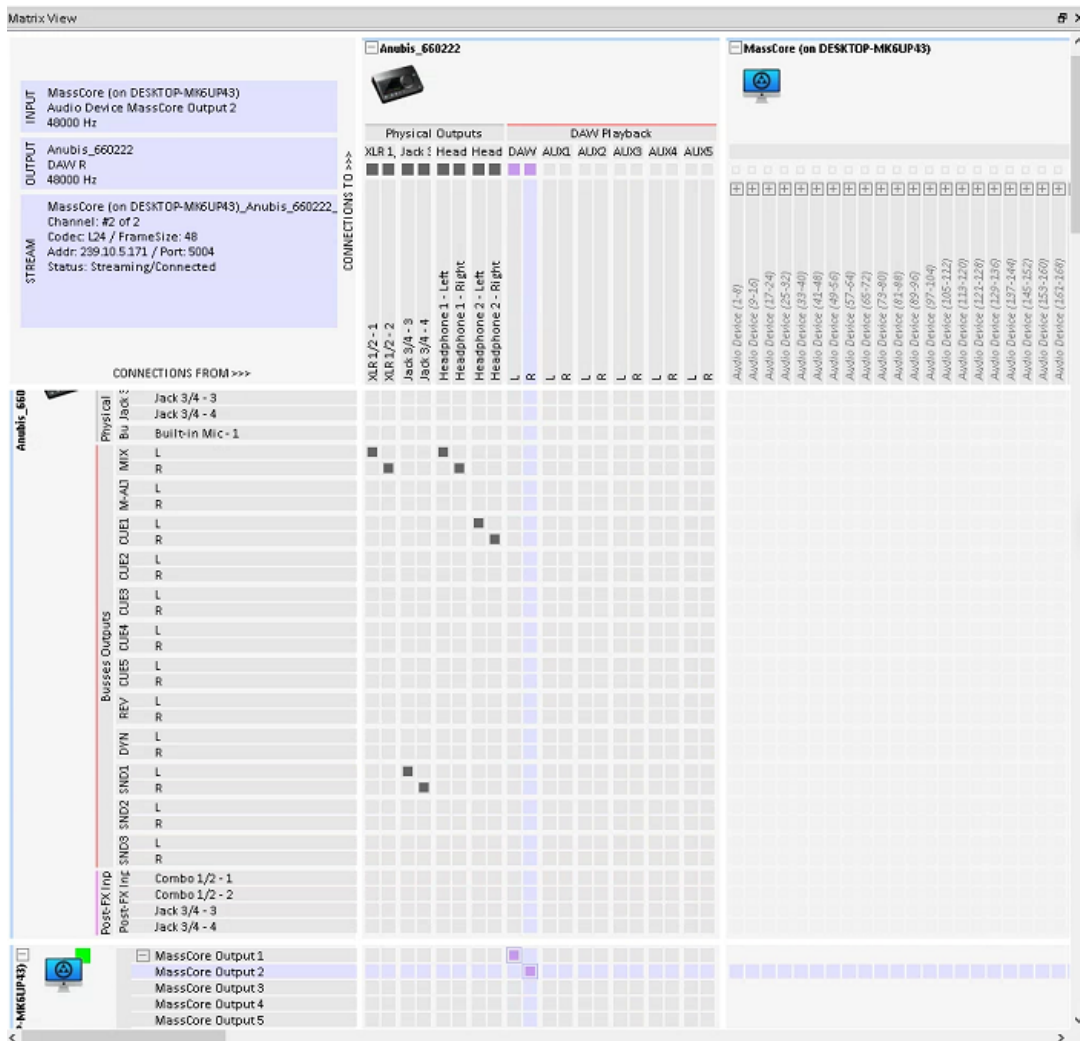


## 4. ANEMAN での設定

- 4.1. ANEMANを起動してください。
- 4.2. DAWとAnubisを同じ **Sampling Zone** に入れ、マウスのドラッグで選択します。



- 4.3. DAWの出力を Anubis の DAW 入力にパッチしてください。  
下図の例では、DAW の MassCore Output 1,2 を Anubisの DAW L, Rに接続しています。





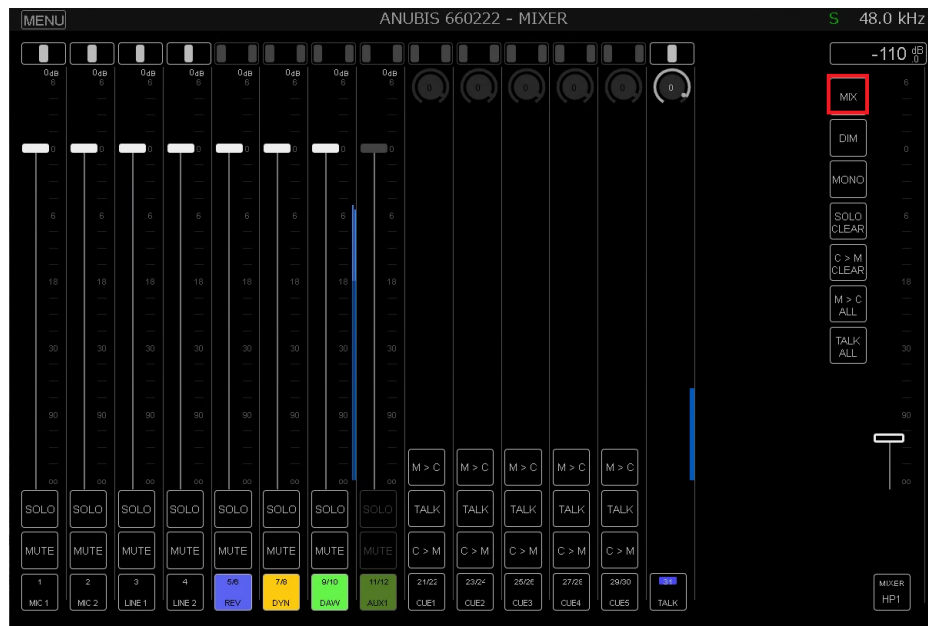
## 5. 操作

### 5.1. ソフトウェアの基本的な考え方と操作

**Music Mission** は、Cue Box として使用することを目的に開発されたソフトウェアです。そのため Mix と Cue1~5 という複数のミックスバスを持っています。デフォルトでは Anubis 本体の XLR には、Mix が出力されています(変更方法は後述します)。

まず ANEMAN 上で **Anubis** をダブルクリックして、ブラウザで操作画面を表示させてください。

既に前節で DAW からの信号が **DAW** と書かれたフェーダー上のメーターに現れているはずです。画面右上の **MIX** は、現在のミックスバランスが **MIX** の状態であることを表しています。



**MIX** ボタンにタッチすると CUE など他のバスのバランスを表示させることができます。



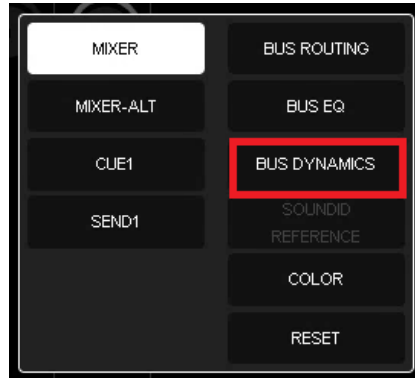
この参考書では、Mix バスに集中して解説していますので、その他の操作方法が知りたい場合は、[Music Mission Appendix](#) や [MusicMission\\_簡単マニュアル](#) をご覧ください。





## 6. 操作パネルの表示

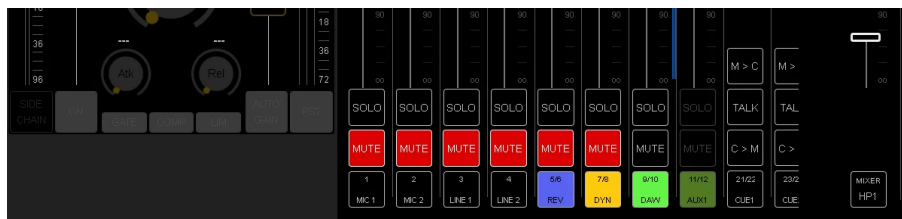
前頁の **MIX** にタッチ(をクリック)してメニューを表示させ、**BUS DYNAMICS** をクリックしてください。



画面の左側にEQとDYNAMICSの操作画面が表示されます。これらは **MIX** のバスにかかるエフェクターです。表示を元に戻したい場合は、左上にある **X** 印をクリックしてください。

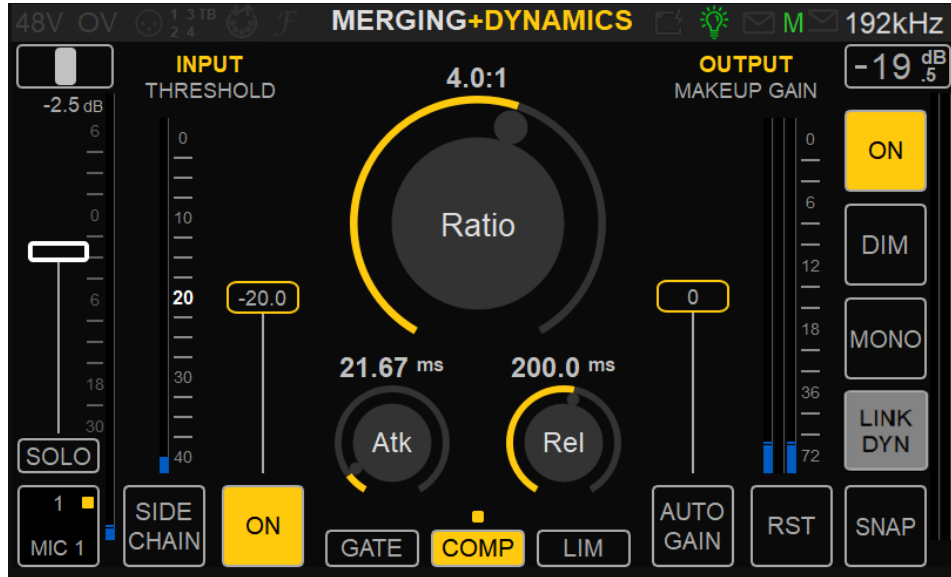


ここでは DAW 以外の信号を **MIX** に入れたくないので、他のフェーダーを **MUTE** しておいてください。





## 7. MERGING+DYNAMICS



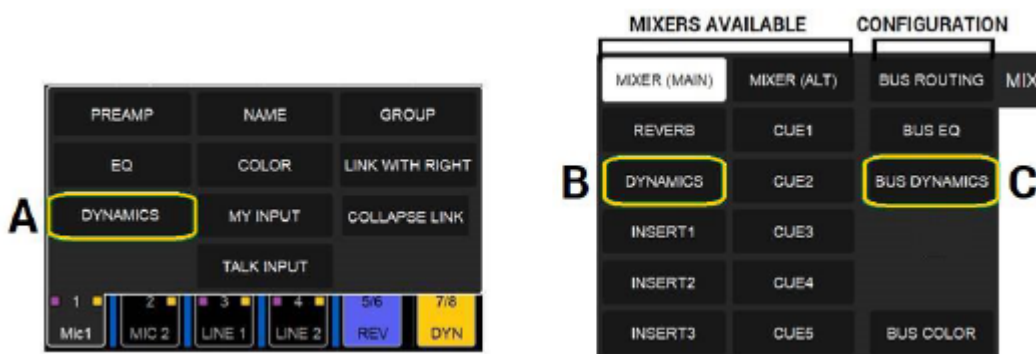
Anubis のビルトイン ダイナミクスは 1x Gate, 1x Compressor, 1x Limiter が直列に接続され、それぞれのモジュールがそれぞれのパラメータを持っています。

出力バスのリミッター、チャンネル ストリップのコンプレッション、スネアやキックのゲート、ボーカルのコンプレッションとリミッター、ドラムの パラレルコンプレッション、サイドチェーンなどに使用できます。

ダイナミクスは、MonoまたはStereo Mode(Link Dyn)で動作します。

### More than just a single Dynamics

- A: どのチャンネル ストリップでも使用できます。Local, Remote/Peered 入力。
- B: Pararell Buss Effect として
- C: どの Output Bus でも使用できます。Local, Remote/Peered 入力。



### ANUBIS MERGING+DYNAMICS FEATURES

- MERGING+DYNAMICS は全ての Anubis ユーザーが使用できます。
- MERGING+DYNAMICS は 44.1kHz から 352.8kHz (DXD), 384kHz までのサンプリング周波数で動作します。
- MERGING+DYNAMICS は次のインスタンスをサポートしています。
  - 64 x DYNAMICS instances at 1FS (44.1/48kHz)



- 32 x DYNAMICS instances at 2FS (88.2/96kHz)
- 16 x DYNAMICS instances at 4FS (172.4/192kHz)
- 8 x DYNAMICS instances at 8FS (DXD-352.8/384kHz)

## Dynamics Modules

MERGING+DYNAMICS は、1 X Gate, 1 X Compressor, 1 x Limiter で構成されています。



### Gate

スレッシュホールド以下の信号を減衰させます。

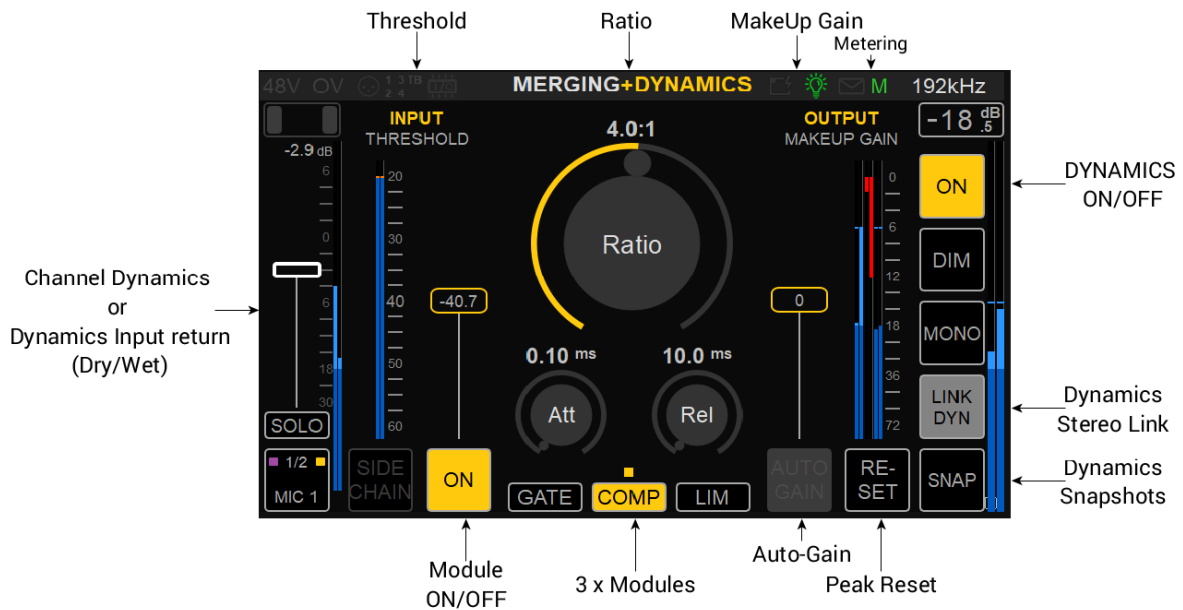
### Compressor

純粋なトランスペアレント ディスクリート コンプレッションに加えて、クラシックなファット コンプレッションを備えており、クリエイティブなミキシングやプロダクションだけでなく、マスタリングやポストプロダクションにも適しています。

### Limiter

信号がスレッシュホールドを超えないようにします。

## DYNAMICS PARAMETERS



### Dynamics ON/OFF

アクティベーションボタンです。ONIにするとダイナミクスがアクティブになり、OFFにするとダイナミクスはアクティブにならず、ルーティングもされません。

### Threshold

スレッシュホールドコントロールは、プラグインが入力信号のダイナミクスに影響を与えるレベルを設定します。スレッシュホールドの値と範囲は、モジュールごとに異なります。

スレッシュホールド フェーダーには、正確な操作のためにオートスクロール スケール機能が付いています。スレッシュホールド値を下げると、メーターの目盛りが40dBの範囲で表示されます。

Gate Threshold range: -144dB to 0dB

Compressor Threshold range: -96dB to 0dB



Limiter Threshold range: -96dB to 0dB

### Ratio

Compression ratio は、信号がスレッシュホールドレベルを通過したときにコンプレッサーが適用するゲイン リダクションの量を決定します。Compression ratio が1:1の場合、処理された信号は処理の影響を受けません。入力側でスレッシュホールドを超えて1dB変動すると、出力側でも1dB変動します。4:1の ratio を適用してみると、入力信号がスレッシュホールド値より4dB以上上昇した場合、出力信号は1dBだけ上昇します。ここではコンプレッサーの動作を示しています。入力信号のゲインは、スレッシュホールドポイント以上で4:1の比率で減少します。LimitとGateの ratio は固定です。

Compressor Ratio Range: 1.0:1 to 32.0:1

### Output / MakeUp Gain

Output / MakeUp Gain は、コンプレッサーの出力にあるゲインコントロールを指します。コンプレッサーは最も大きな信号のレベルを下げるため、入れた後は、通常、元の信号よりも小さな信号になります。

Range: +36dB to -36dB

### Metering

入力レベルメーター、ゲインリダクションメーター、出力レベルメーター。これらの表示により、現在のレベルを即座に把握することができます。

Gain Reduction Meters: ダイナミクス処理の瞬間的なゲインリダクション (dB) (0dB以下は赤) またはゲインアップ (dB) を表示します。

Output Meters: 各チャンネルのピークホールド値を表示するフルスケールメーター。

### Attack

Attack time は、スレッシュホールドレベルに達したときのプロセッサの反応速度を設定します。ドラムのようなトランジェントの多い素材では、オーバーシュートを最小限に抑えるために速いアタックタイムが必要です。それ以外の素材では、アタックタイムが短すぎると、音が鈍くなったり、聴感上の歪みが生じたりします。

Range: 0.1ms to 200ms

### Release

Release Time は、スレッシュホールドを超えなくなった後、適用されたゲイン変化がユニティーに戻る速度を設定します。ほとんどの場合、リリースタイムはプログラムに大きく依存します。

Range: 10ms to 2 sec

### Sidechain

Sidechain コンプレッションは、ある楽器や音のレベルが別のコンプレッサーを動作させるトリガーになることです。Sidechain オプションを有効にしたい場合は、まず両方のチャンネルにダイナミクスが存在することを確認してください。コンプレッサーは代替ソースチャンネルから入力信号を受けている必要があります。

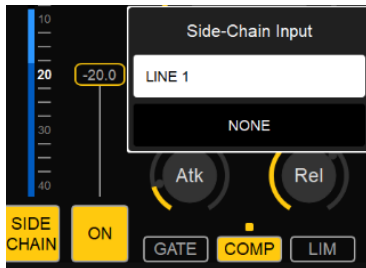
例: ベースとキックで、ベースが演奏している時でもキックの音が聞こえるようにしたい場合、Sidechainが便利です。

### ON/OFF

モジュールの起動。ゲート、コンプレッサー、リミッターの各モジュールには、それぞれアクティベーションの設定があります。



### Sidechain input channel selector



Sidechain のソースのチャンネルの **Dynamics** を有効にする必要があります。

#### ON/OFF

モジュールのアクティベーションです。Gate, Compressor, Limiter には、別々の Activation があります。

#### Module Selector

この画像ではコンプレッサーモジュールが選択されていますが、このモジュールをタップしてアクティブにすることで、操作したいモジュールを選択します。したがって、すべてのパラメータは選択されたモジュールを反映します。



#### Module Status

モジュールLEDインジケーター:モジュールがアクティブであるかどうかを示します。この例では、GateとLimiterモジュールが有効になっていますが、Compressorは有効になっていません。



#### Auto Gain

入力信号の強さに応じてゲインレベルを調整し、より安定した音量を実現します。

#### Reset Gain

長押しすると Output フェーダーが 0dB にリセットされます。

#### Peak Reset

このボタンをタップすると Dynamics メーターのピークをリセットします。

#### Link Dyn

ダイナミクスのパラメーターをステレオストリップなどリンクしたチャンネルに設定したい場合に有効にします。

#### RESET

Dynamicsのパラメーターは Dynamics Reset factory preset をリコールするとリセットされます。

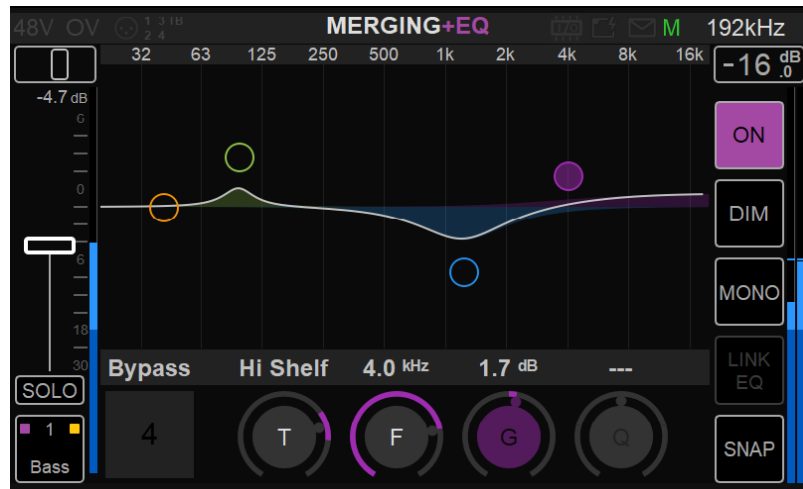


#### Record Post FX

DAWで Dynamics を録音するには、Anubisを Unite し、Post-FX のエントリーを選択してください。次に、適切なチャンネルをDAWに接続してください。



## 8. MERGING+EQ



Anubis EQ は Pyramix EQ-X をベースに作られており、DXDまでのサンプリング周波数でエクストリーム デフィニション フィルタリングを提供します。

Anubis EQ は 4バンドのフルパラメトリックEQ で、各バンドごとにフィルタータイプ、ゲインブースト/カット、周波数、Qファクター(帯域幅)を独立してコントロールすることができます。notch, low cut, Hi Cut, peak, shelving のフィルター タイプが用意されています。このエクストリーム デフィニション イコライザーのフィルター設計は、最高のオーディオ解像度に対応するために特別に最適化されていますが、その一方で非常に低ノイズと低歪みを持っており、可聴域(および非可聴域)全体を通して -110dB 以上の THD+N を持っています。もちろん、この新しいデジタルフィルターのトポグラフィーは、高サンプルレートを考慮して設計されていますが、1FSでのイコライゼーションでも低ノイズとなっています。

EQは、任意の入力(Local または Peered)または 任意のバス出力(ヘッドフォンやルームコレクションなど)に入れることができます。EQ リソースは累積されるのではなく共有されます。これにより、Input や Output ごとに複雑なイコライゼーションが可能となり、Music Missionでは 4バンドの合計 21 x 4バンドEQを任意のサンプリングレートで使用することができます。

### ANUBIS EQ FEATURES

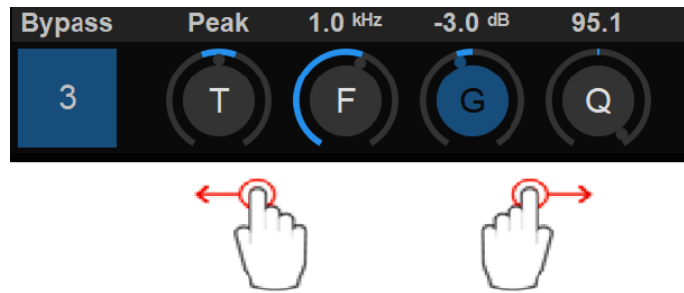
- すべてのユーザーがEQを使用可能
- サンプリング周波数 44.1kHz ~ 352.8kHz(DXD), 384kHzまで対応
- 1チャンネルあたり最大4バンド、合計21のEQインスタンスが任意のサンプリングレートで利用可能

### ANUBIS EQ RESTRICTIONS

- DSDには対応していません
- 周波数とQの設定にタッチパネル操作はできません
- Present はありません
- クロスオーバーには 1 EQ(4バンド)を使用します



## ANUBIS EQ PARAMETERS CONTROLS



操作: 操作したいパラメータをタップし、ロータリーコントローラーを使用して変更してください。

EQバンドの選択: 周波数帯を選択したら、設定したいUI自体の周波数帯をタップして、パラメータコントロール上で左右にスワイプして、隣接する周波数帯にアクセスします。

### Bypass

2

Band チャンネル番号: バンドを選択して Bypass をタッピングすると、そのバンドのみがバイパスされます。(例: バンド2) Bypassのデフォルト値: Disable



### Filter Type

5種類のフィルター タイプが全てのEQバンドで使用できます。

Types:

- Low Cut (Lo Cut - high pass filter): 6 dB per octave
- Low shelving (Lo Shelf)
- Peak (Parametric)
- High shelving (Hi Shelf)
- High Cut (Hi Cut): 6 dB per octave low pass filter

Note: 12dB/Oct で使用するには 2つのバンドを使用します。

デフォルト値: Peak



### Band Frequency (up to 4)

バンドの中心周波数を設定します。

Unit: Hz と kHz

Value Range: 20Hz / 20kHz

Default Value for first five bands: 31Hz / 125Hz / 500Hz / 2kHz / 8kHz

Step: 24 steps per octave



### Gain

選択しバンドのゲインを -24 dB から +24 dB の間で dB 単位で設定します。

フィルタータイプが Peak および Shelving にのみ使用されます。



Default Value: 0 dB

Step: 0.1 dB



### Band Q-Factor (7)

パラメトリックフィルターを使用している場合、バンド上のゲインと周波数の影響を受ける周波数範囲の調整です。Qは Peak Filter Type の場合のみ設定可能です。

Q の値が低いほど影響を受ける周波数範囲が広く、高いほど影響を受ける周波数範囲が狭くなります。

Value Range: 1 to 100

Default Value: 10

Step: 24 steps logarithmically distributed.

### EQ Control Column

EQサイドのコントロール: Reference, DIM, Mono のコントロールはミキサーのものと同じです。

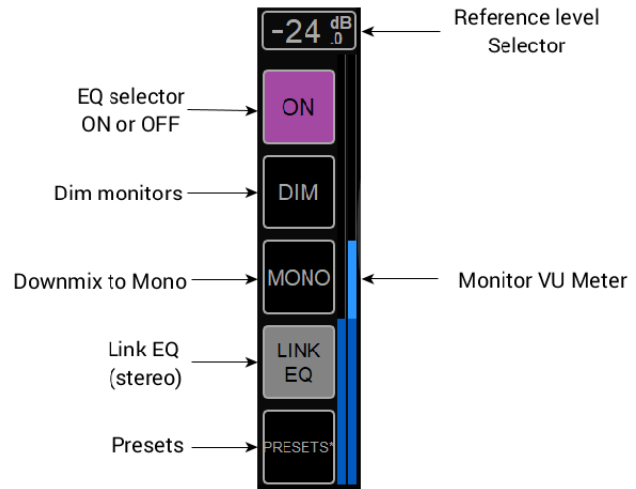
### ON-OFF

EQを ON/OFF します。

### Link EQ

リンクしたチャンネルと同じEQパラメーターに設定したい場合、Link EQ を有効にしてください。

ステレオ リンクしたチャンネルに異なる EQ をかけたい場合は、各チャンネルの EQ を入れて、Link EQ オプションを入れないでください。



### Presets:

エフェクト(EQ, Dynamics, Reverb)ごとに18種類のプリセットが用意されています。

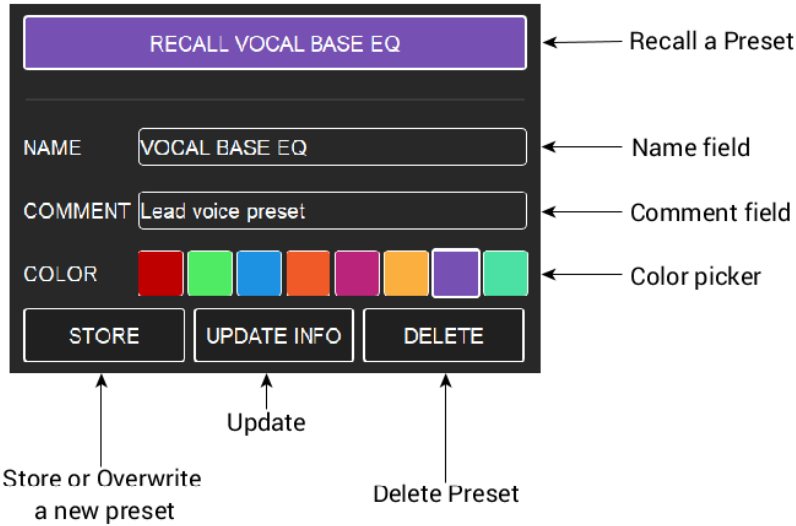
### Record Post FX

DAWでEQを録音するには、Anubisを Unite し、Post-FX のエントリーを選択してください。次に、適切なチャンネルをDAWに接続してください。



プリセットダイアログを開くには、プリセットボックスをタップして空にします。

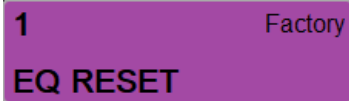




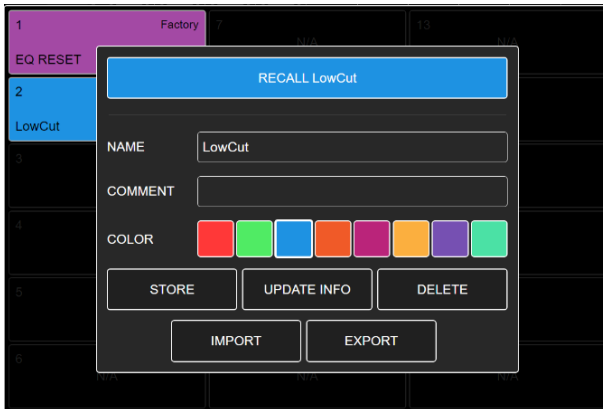
Snapshot ページから Mixer ビューに戻るには、ホームボタンを押してください。

## RESET EQ

EQのパラメーターは Dynamics Reset factory preset をリコールするとリセットされます。



## Import and Export Snapshots (firmware 1.4.3 以降)



Webアクセスを利用すると、Snapshot をローカルに Import または Export して、別の Anubis に再インポートしたり、他のユーザーと共有することができます (EQ, Dynamics, Reverb, Deesser のエフェクトにも適用されます)。Web アクセスについての詳細は、[こちら](#)をご覧ください。



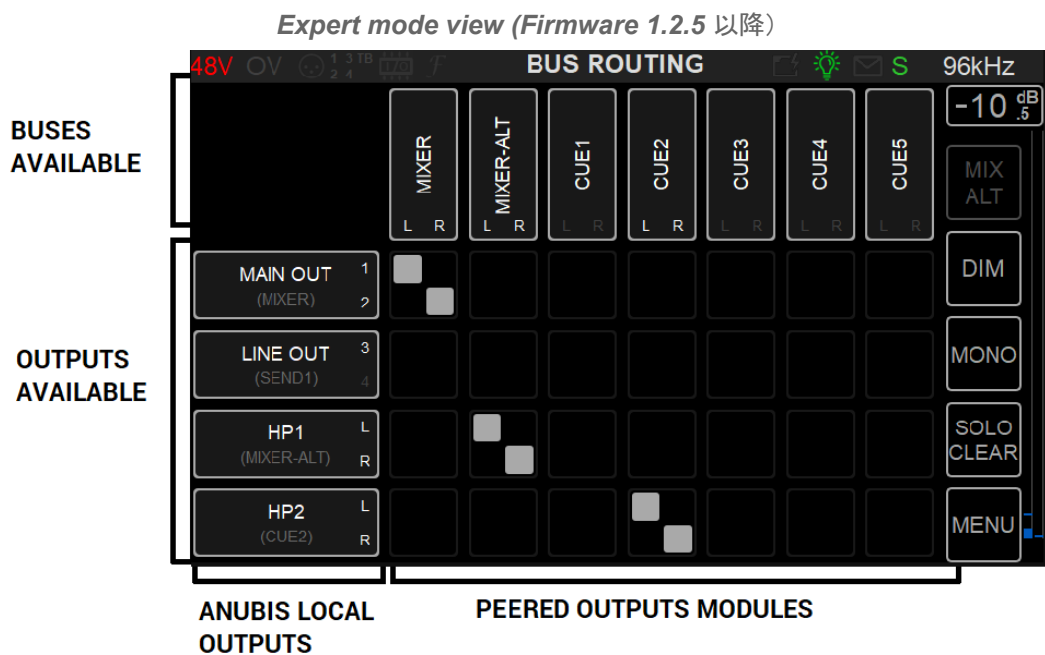
## 9. 物理出力の変更方法

### BUS ROUTING

バスルーティングの設定は、Mix Configuration ダイアログと Menu オプションからも開くことが可能ですが、どちらも同じ Bus Routing configuration ページにリダイレクトされます。

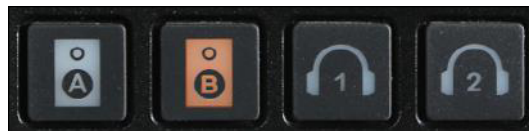
バスのルーティングの設定は、各ミキサーバスの出力をパッチし、Mixer や Sends, Cue をモニターするための基本設定です。

*Note:* Default モードでは、利用可能なバスのセットが少なく表示されます。拡張表示させるには Expert モードに切り替えてください。



Anubis で他のデバイスをピアリングしている場合、それらのデバイスはペアで表示されます。ピアリングは Expert モードでのみ使用できます。

*Note:* バスルーティングがローカルの Anubis の出力に接続されると、Anubis のソフトボタンがそのバスの色で点灯します。



### How to configure the Bus Routing

Mixer Bus は Routing ダイアログの最初の行に表示されています。パッチを行いたいミキサーのバスをタップすると、白でハイライトされます。



### Default mode Bus Routing

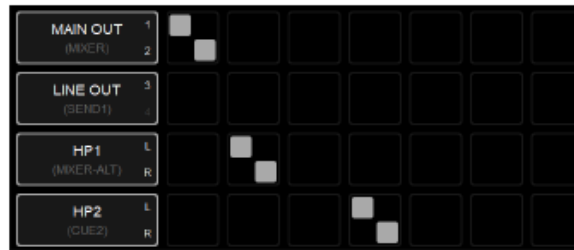


### Expert Mode Bus Routing



その後、パッチしたい出力名をタップします。ダイアログが開き、使用できる出力を選択することができます。Anubisで他のデバイスをペアリングしていない場合、ローカルの出力のみが使用可能です。

### New Bus Routing (Firmware 1.2.5 and higher)



選択された出力は白でハイライトされます。工場出荷時のルーティングは以下のようになっています。

- Mixer(Main) -> Anubis Main Out XLR 1 & 2
- Mixer-Alternate -> Anubis Headphones 1
- CUE 1 -> Anubis Headphones 2
- Send 1 -> Anubis Line out TRS3 & 4

Bus ルーティングを設定するには、ルーティング先となる出力ペアをタップしてください。Routing ダイアログが開き、ステレオまたはモノラルでのルーティング、またはステレオルーティングを反転させることができます。

Note: Mono ルーティングと Stereo チャンネルの反転は、Expert モードでのみサポートされています。

### Routing Patch Dialog (expert mode only)



- Stereo L-R -> 1-2 :Bus を Anubis の Stereo Channel Pair (1-2) に送ります。
- L -> 1 :Bus の左チャンネルを Anubis (out 1) に送ります。
- R -> 1 :Bus の右チャンネルを Anubis (out 1) に送ります。
- L -> 2 :Bus の左チャンネルを Anubis (out 2) に送ります。
- R -> 2 :Bus の右チャンネルを Anubis (out 2) に送ります。



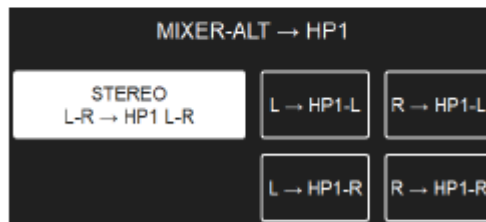
## Bus Routing Examples



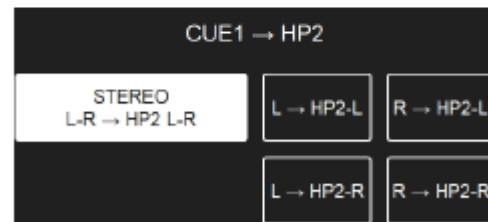
*Mixer Main: Routed to Anubis XLR Outputs 1-2*



*Send1: Routed to Anubis TRS Outputs 3*



*Mixer ALT: Routed to the Anubis HP1 (1-2)*



*Cue1: Routed to the Anubis HP2 (1-2)*

ルーティングされると、アウトプット セクションには使用中の Mixer Bus 名が表示されます。

注:L-1とL-2を選択すると、どちらか一方が選択されます。このようなパッチングは、シンプルにステレオを選択してください。